

## 文化・芸術

### 「先で待つ」

2022年、アクリル、パステル、色鉛筆  
段ボール 80・0 ㎝×80・0 ㎝

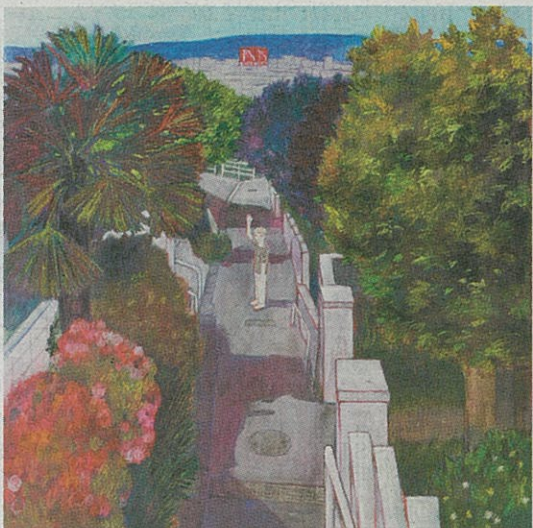
堀越達人 (1985年)

堀越達人さんは桐生市に生まれ、多摩美術大学大学院美術研究科を修了。これまで、油彩を用いて静かな表情の奥に無邪気さを秘めた独特のアニメチックな少年少女のポートレートを多く制作してきました。十数年ぶりに制作拠点を東京から桐生に移し、新たに風景表現が取り入れられます。

本作は板段ボールに描かれ、キヤンバスに油彩で描くよりも気を張り詰めず自然体で描くことができたといえます。パステルや色鉛筆によるあたたかみのある描線も魅力的です。

鮮やかな木々に対して、坂道の先で手を振る少年は淡い光にまつまれたようにぼんやりと白く描かれ、遠景には以前この地にあったスーパーマーケットの看板が、「過去と現在を頭の中で行き来する復活活動」が制作を続ける中で重要な工程となったという作家の言葉を彷彿(ほうふつ)とさせる本作は、かつての純粹性をあらためて見つめ、現在を問いかけるまなざしを感じられます。

(大谷)



### 〈名画の扉〉

大川美術館企画展「桐生のアーティスト2022 Natural Mind and Natural Color in KIRYU」から